

Student Activities

活躍した学生たち



ナガサキ・ユース代表団

2017年5月、ナガサキ・ユース代表団5期生のメンバー9名がウィーンの国連事務所で行われた「2020年核不拡散条約(NPT)再検討会議第1回準備委員会」へ参加しました。現地では、各国の外交官との意見交換、国際機関・現地の大学への訪問や国際会議国連内の会議室を使用した自主ワークショップなどを行いました。現在は6期生として、8名がジュネーブで行われる「同第2回準備委員会」への参加に向けて準備しています。

全国学生CPR選手権大会で総合3位に入賞

医学部救急医療系サークルのFLANが、2015年10月17日に行われた第1回全国学生CPR選手権大会で総合3位に入賞しました。CPRは心肺蘇生法 Cardio Pulmonary Resuscitation の略称で、大会では全国の医学部学生の心肺蘇生技術の向上を目的としています。FLANでは、普段から救急に関する勉強会や他大学の救急サークルとBLS(一次救命処置)のワークショップの実施、年に1度近隣の中学校を訪問し、中学生へBLSを教えるなどの活動をしており、その成果が今回の結果に繋がりました。



サークルの活躍

よさこい部「突風」は、全国各地のYOSAKOI祭りへの参加や県内の学校で演舞指導を行うなど大活躍のサークルです。毎年10月に開催されるYOSAKOIささば祭りでは、2015年に準大賞に選ばれました。また、アーチェリー部は2017年10月21、22日に開催された九州学生アーチェリー新人選手権大会の大学対抗の部において、総合優勝を果たしました。さらに、水泳部が九州大会で女子団体3位となり、全国大会への切符を勝ち取るなど、九州や全国で長大生が活躍しています。



やってみゅーでスク



長崎大学を含めた県内7大学のボランティア窓口です。長崎大学の全学部学生のうち29%が登録しています(平成29年度)。ボランティアは学生自身の成長につながる上、地域貢献も果たします。ボランティアでは給料は発生しませんが、就職活動に役立つだけでなく、技術や経験、人とのつながりなど、お金ではない対価を得ることができます。

長大祭

毎年11月に行われる長大祭では、学園祭運営委員会がステージでの企画や小道具、パンフレットの作成などの運営を行っています。中でも注目の企画が、2016年から長崎市内の他大学と合同で開催しているミス長崎コンテストです。また、2017年にはアミュプラザ長崎とタイアップも果たしました。2018年はより地域とのつながりを増やし、長崎を代表する学園祭を目標に、準備を行っているとのこと。

多文化社会学部生がベトナムの「長崎くんち御朱印船」公演に参加

2017年11月、多文化社会学部生が中心となって活動している国際交流サークル「ふくろう」は、長崎県派遣団の一員として、「御朱印船プロジェクト」に参加しました。日本とベトナムとの交流促進などを目的として、ホイアン市で「長崎くんち 御朱印船」の公演を行うプロジェクトです。ホイアンは、江戸時代初期に日本人町が存在し、長崎とも歴史的なつながりの深い街で、今回のプロジェクトで新たなつながりがまた始まりました。

NPO法人Slopeers(スローピアーズ)

経済学部の学生が、NPO法人「Slopeers」を立ち上げ、長崎を盛り上げようと約30名の学生が活動しています。これまで、旅行会社と連携した修学旅行向け商品の開発や就職活動に活用できる名刺の作製・販売事業を行ってきましたが、2017年からは、学生と地元企業の繋がりを促進する企画を展開し、企業と共同で制作した企業PR動画のプレゼン大会を12月に開催しました。大学で学んでいる経済の知識や理論を実践し、若い力で魅力ある長崎の実現を目指しています。



長崎ブレークスループロジェクト

産学官協働グローバル人材育成プロジェクト「長崎ブレークスループロジェクト」は、長崎県の企業の海外展開や新規事業に、県内の大学生や留学生が協力して課題を解決していくプロジェクトです。協賛企業と地域コーディネーター、大学等の間で研究テーマを設定し、集まった学生が、関連する企業でのインターンシップや海外留学を通して研究を進めます。今年には「中国人向け歯のホワイトニング」、「ベトナムでのアジア人材活用」、「インドでの飲み会文化の普及」などのプロジェクトに取り組みました。2018年3月には、学生による「長崎発」ビジネスイノベーションコンペ「ビジネスくんち」を開催し、成果の発表を行いました。



ながさき海援隊 ベトナムのゴミ分布調査に参加

2017年9月9日から12日にかけての4日間、ベトナム南部ソクチャン省モーオー(MoO)干潟にて、経団連自然保護基金の支援を受けたゴミ分布調査が実施されました。長崎大学からは海岸清掃のボランティア活動を行っている「ながさき海援隊」の学生など計8名、ベトナムからはカントー大学の学生や地元ボランティアなど計22名が参加しました。調査後には、集めたゴミのサンプルを元に、日越の学生がゴミ問題の背景や対策についてディスカッションを行いました。

